

017  
受験番号

令和七年度 熊本大学文学部 学校推薦型選抜試験問題

## 小論文

## 文学科

### 注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで開けてはいけません。
- 2 試験開始の合図の後、直ちに表紙、問題用紙および解答用紙に受験番号を記入してください。
- 3 問題用紙が五枚、解答用紙が五枚、下書き用紙が一枚ありますので、開始の合図の後、乱丁や落丁がないかどうか確かめてください。もしあれば、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 4 解答用紙は持ち帰ってはいけません。
- 5 試験終了後、問題用紙と下書き用紙は持ち帰ってください。

令和七年度 熊本大学文学部 学校推薦型選抜試験問題

小論文 問題用紙 (1/5)

受験番号

① 次の文章はベストセラー『置かれた場所で咲きなさい』に関するものである。読んで後の問いに答えなさい。

「五六年生きてきて、今なら『置かれた場所でもがんばったな』と思える」

関東地方に住む看護師の女性(五六)は、半生を振り返ってこう話す。

実家は自営業で、経営が苦しい時期と大学進学時が重なった。両親は二人の弟の進学を優先させるため、女性に「大学は諦めて」と言った。

担任の勧めで費用が安かった看護専門学校に進学。看護師になって最初に勤めたのは子ども病院のNICU(新生児集中治療室)だった。

五〇〇グラム前後で生まれた赤ちゃんは、少しでも具合が悪くなると顔が真っ青になり「死んでしまうのでは」と心配になった。亡くなる子もいたが、成長して退院していく子を見送れる喜びもあった。

ただ、「なりたくてなかったわけではない」という気持ちは消えなかった。バブル景気の中、楽しそうに大学生活を送る同世代が羨ましかった。しかし深く考える暇もなく、毎日を必死で生きてきたという。

看護師を辞めて違う職に就く人もいた。自身も他の道を考えなかったわけではない。でも、勤務先や働き方は何度か変えたものの、いまでも看護師を続けている。「他の人から見たら『転職する勇気がなかった』と思われるのかもしれませんが。でも、葛藤しながら時間が過ぎていったのです」

離婚した元夫は、女性とは真逆で「咲ける場所は探すべき。一度きりの人生に我慢は不要」という考え方をする人で、転職を繰り返した結果、最後には就く仕事がなくなった。元夫を見ていて「自由だな」と羨ましく思う一方、「良いところだと思えるかどうかは、自分の心の問題なので」とも感じていたという。

『置かれた場所で咲きなさい』が出版されたのは二〇二二年。前年に起きた東日本大震災の影響が続き、原発は一時稼働ゼロに。消費税を五%から段階的に一〇%まで引き上げる

令和七年度 熊本大学文学部 学校推薦型選抜試験問題

小論文 問題用紙 (2/5)

受験番号

消費増税法が成立し、年末には自民党が政権を奪還した年だった。

著者の故渡辺和子さんは九歳のときに二・二六事件で父親（陸軍教育総監・渡辺錠太郎）を殺され、ノートルダム清心女子大学学長などを務めた修道女。同書の「はじめに」で「修道者であっても、キレそうになる日もあれば、眠れない夜もあります」と吐露し、「咲けない日があります。その時は、根を下へ下へと降ろしましょう」と書いた。

冒頭の看護師の女性は「私はいまも根を張っているとは思わない」と話す。ただ、願った通りにならなくても焦らずに生きていくことも必要では、と考えているという。

女性の次男は大学時代に中退して起業しようとして、最終的に失踪して自ら命を絶った。「息子は、置かれたところで生きてくなくなかったのですね。でも、白か黒か決めなくてもグレーの状態を生きることだってできる。若い人は、すぐに結果を出そうとしないでもいい。長く生きないと分らないことがある」

そう話す女性は、「置かれた場所で咲きなさい」という言葉については、「現状がづらい人に他人がかける言葉ではない。自分が自分に対してかける言葉としてなら良いけれど、若い人に言っても不快なだけなのではないでしょうか」と語る。

東京都に住むフリーランスの女性（五二）は「花を咲かすことができず、つぼみのまま耐え忍んでいた」時期があったと振り返る。

大学を卒業して大手の人材紹介会社に入り、キャリアアドバイザーになった。毎日終電で帰るほど忙しく、「あのときは、大輪の派手な花を咲かせていたのかも」と振り返る。

しかし、三〇代のときに声をかけてもらった小さなエージェントに転職したところ、事前に聞いていた仕事内容と異なり、社風も合わなかった。すぐにでも転職したかったが、「短期間で仕事を辞めると経歴としてマイナスになる」と考え、踏みとどまったという。

神経性胃炎になったこともあったが、なんとか耐えて二年半後に転職。学生のキャリア支援の職に就くことができた。

令和七年度 熊本大学文学部 学校推薦型選抜試験問題

小論文 問題用紙 (3/5)

受験番号

これまで、大学生から六〇〜七〇代まで幅広い年代のキャリア相談にのったり、模擬面接官として話を聞いたりしてきた。その上で感じるのは「納得感があることが大事」ということだ。

例えば、親が経営する飲食店を継ぐことを決めたとしても、いやいや継ぐのか、「自分の運命だ」と受け止めて納得して継ぐのかでは全く異なる。

『あちらでも咲けるのかな』とモヤモヤしているのなら、一度転職活動をしてみても良いと思います。転職活動⇨転職ではないので。活動した結果、『いまのところで咲こう』という納得感が生まれるかもしれない。咲く場所を探すことで失うものはないと思います」

この女性は現在、フリーランスとして働く。年収は下がったが、心身は満たされているという。『がむしゃらに働いた時期があり、『やりきった感』がある。いまは目立たなくてもいいので、目に優しい花を長く咲かせていたい』

(中略)

どんな場所で花を咲かせるのか。そして、花を咲かせられない時はどうすればいいのか。時代が変わっても、誰もが直面する問いなのかもしれない。

(山本奈朱香「自分の花を咲かせたい」『AERA』二〇二四年九月二三日号) による。原文を改めた箇所がある。)

問一 傍線部について、この女性はなぜこのように発言したのか、またそれについてあなたはどうか考えるか、一〇〇字以内で説明しなさい。

問二 本文中では「置かれた場所で花を咲かせた人」と「花を咲かせるための場所を探した人」の例が紹介されています。また、他の道も考えられます。では、あなたはどのような生き方が望ましいと考えますか。具体例を挙げながら(自分でも他の人でも構いません)、立場の違う人に説明することを想定して、分かりやすく四〇〇字以内で述べなさい。

令和7年度 熊本大学文学部 学校推薦型選抜試験問題

小論文 問題用紙 (4 / 5)

受験番号

2 次の英文は、作家と作品の「多様性 (diversity)」と「多文化主義 (multiculturalism)」に関する解説文の一部である。読んで、後の問いに日本語で答えなさい。

“Diversity” is a term with no essential philosophical, political, or aesthetic\* content. It simply names a fact, which is that people who write works of literature are different from one another, and so are people who read works of literature. The population of writers is composed of individuals, each with a particular history and a particular identity, and the population of readers is similarly heterogeneous\*.

No one disputes this. What people dispute is the extent to which it matters to criticism. The burden on the people who think that it doesn't matter, or that it matters in only slightly interesting ways, is to explain how so blatant\* a fact can possibly be irrelevant to the interpretation, description, and evaluation of literature. The burden has been met by a series of elegant and powerful arguments. The burden on the people who think it does matter is to explain how so mundane\* a fact can be central to the analysis of an aesthetic form. This burden has not been met so successfully.

Since the demise\* of the Cold War, toward the end of the 1980s, “diversity” has become a slogan in a movement known as “multiculturalism,” and in this context, the term has acquired a content: it is taken to name a good in itself. For multiculturalists, diversity is a condition to be recognized, encouraged, celebrated. Criticism that ignores diversity, or that regards literature as something which, by its nature, “overcomes” diversity, is suspect.

There is nothing about the mere fact of diversity that requires this view. People are different. So what? Grains of sand are different, too. That doesn't mean there's no such thing as a beach. But proponents\* of “diversity” believe that to say that the differences among writers and readers of literature are less important than the similarities is equivalent to suppressing the differences. They think that beach-talk is basically a way of keeping the sand in its place. Critics of multiculturalism don't disagree; they just think that belonging to a beach is better for the sand.

It's important to understand two things about this state of affairs. The first is that multiculturalism is only one of the ways in which the fact of diversity can be represented and accounted for in literary studies. Multiculturalism is a particular set of views arising at a particular time. There have been other responses to “the problem of diversity,” with social and political implications\* different from those of multiculturalism. The second is that the belief that diversity is *not* a central category in the interpretation, description, and evaluation of literature is itself one of those responses.

(Louis Menand, “Diversity,” *Critical Terms for Literary Study*, Second Edition による。原文を改めた箇所がある。)

令和7年度 熊本大学文学部 学校推薦型選抜試験問題

小論文 問題用紙 (5 / 5)

受験番号

【注】 \*aesthetic 審美的な \*heterogeneous 多種多様な \*blatant あからさまな \*mundane ありふれた  
\*demise 終結 \*proponent 提唱者 \*implication 含意

問1 本文の内容を 200 字以内の日本語にまとめなさい。

問2 文学作品を多様性に着目して読むことの意義について、あなたの考えを 400 字以内の日本語で述べなさい。